

新年度を迎えて

ほげい船原稿 平成24年4月

今年も異動の季節となり3月には一緒に働いていた同僚が去った一方、4月には多くの新しい仲間を迎え24年度がスタートしました。職員が入れ替わることに関しては様々な問題も指摘されていますが、一方では新しく入職した人や他の施設で仕事をしていた人の新しい考え方が入ることで病院職員のマンネリ化を避けることができ、その点において人事交流は大きなメリットであるといえます。異動というシステムを有する国立病院機構の病院として、毎年、新しく加わったメンバーと一緒にあって病院目標である「地域に信頼される病院」になるように努めていきたいと思っています。

このためには、患者の目線に立った質の高い医療の提供、政策医療の提供、特にがん、結核を含む呼吸器疾患、成育医療、骨・運動器疾患、腎疾患、免疫異常、重症心身障害などに関する医療、質の高い臨床研究や治験の推進、教育研修などを通じた質の高い医療人の育成、災害が起こったときの救急医療支援などを継続して強化していくことが重要です。これには職員一人一人がそれぞれのテーマに自発的に取り組んでいかなければなりません。これらはそれぞれが独立したものではなく相互の関連性は非常に強く、専門診療科間の協力により総合力を発揮し、他部署や他職種間の連携を深めることでより発展していけるものと思っています。また、職場はやりがいのある、働きやすい職場であることが重要で、そのような病院にしていきたいと考えていますが、そのためには、病院側の対応のみならず、職員の意識変化も重要です。言われたことを義務的に行うのではなく、各部署で個々の職員がそれぞれ問題点を抽出し改善に努め結果を出していくことが大切で、このことはやりがいにも繋がり、その積み重ねにより結果的に病院を変えていくことができると思います。

昨年度、高知病院はDPCを導入致しました。DPCはそれぞれの病院の診療内容を分析することにより医療の標準化をはかることを目的にわが国の医療に採用され、今後この方向性は変わることはないと思います。DPCについての問題点も多く指摘されていますが、診療内容に関して他施設と比較ができるようになったことは病院にとって非常に意味のあることです。私たちの病院も他施設の診療内容と比較を行うことで相違点を分析し、問題点を改善することに努めていかなければなりませんし、そうすることで良質の医療を患者さんに提供できるようになると思います。

最近の医療の動向をみてみますと、今まで以上に地域の基幹病院としての役割は大きくなっていくように思います。高知病院も西部の中核的病院として地域の医療機関の要望に答えることができるように診療内容を充実させていかなければなりません。国立病院機構も非公務員化に向かっており職員にも積極性が要求されるようになることは間違いありません。職員一人一人が理想的病院にするためには何ができるかを考え活動することにより、高知病院はより一層進化していけるものと思います。職員一丸となり今年度は昨年度に比べ評価できうるすべての項目において、よりよい成績を残し来年度に繋げていきたいと思っています。